

## 講演会・カンファランス等のご案内

### 北九州地区小児科医会のご案内

#### 第560回北九州地区小児科医会10月例会

日時：2019年10月17日（木）19:00～20:30  
場所：北九州市立八幡病院 4階 会議室  
演題：「本邦における脳死下臓器提供の現状と課題」  
演者：北九州市立八幡病院  
小児救急・小児総合医療センター 西山 和孝 先生  
特別講演：「こどもの看取りとグリーフケア  
～脳死に陥った子どもたちに施す医療とは何か～」  
演者：富山大学医学部小児科学講師 種市 尋宙 先生

※10月例会は通常と会場が異なりますのでご注意ください。

#### 第561回北九州地区小児科医会11月例会

日時：2019年11月21日（木）19:30～20:30  
現在調整中です。

### 産業医科大学カンファランス・セミナー

#### 産業医科大学小児科セミナー

日時：2019年10月24日（木）18:00～  
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室  
演題名：乳幼児健診での診るべきポイント  
～早期発見のために～  
演者：石井 雅宏 先生、福田 智文 先生

※10月の産業医科大学小児科クリニカルカンファランスは  
お休みです。

#### 産業医科大学小児科クリニカルカンファランス

日時：2019年11月11日（月）19:00～  
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室  
演題：臍帯血移植13年後に甲状腺腫大を来した、  
甲状腺腫瘍の15歳女性例  
演者：産業医科大学小児科 島本 太郎 先生、齋藤 玲子 先生  
川越 倫子 先生、山本 幸代 先生、河田 泰定 先生

#### 産業医科大学小児科セミナー

日時：2019年11月28日（木）18:00～  
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室  
演題：環境因子および微生物学的因子からみる  
川崎病の病因および治療反応性  
演者：産業医科大学小児科 小川 将人 先生、清水 大輔 先生

### その他講演会などのご案内

#### 第425回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2019年10月24日（木）19:00～  
場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター  
演題1：小児発達外来でのインチュニブの使用経験  
演者：北九州市立総合療育センター 小児科 鈴木 聖子 先生  
演題2：私を育ててくれた障害児との  
インテグレーションキャンプ  
演者：北九州市立総合療育センター 小児科 高野 志保 先生

#### 第425回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2019年11月28日（木）19:00～  
場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター  
演題1：「当院で入院加療を行なった百日咳  
～5年間のまとめ～」  
演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科 柴原 淳平 先生  
演題2：「血球減少で注意すべき鑑別疾患～伝染性紅斑～」  
演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科 長澤 功多先生

#### 令和元年度第1回乳幼児健診登録医療機関研修会

日時：2019年11月18日（月）19:00～  
場所：市立商工貿易会館 2階 「多目的ホール」  
演題1：「平成30年度乳幼児健診等結果について」  
演者：北九州市子ども家庭局 子ども家庭部 子育て支援課  
演題2：「発達障害児の対応と生活習慣」  
演者：北九州市立総合療育センター小児科部長 友納 優子 先生

## 保険診療メモ

### 検査は段階を踏んで行ってください

病院小児科を中心に、初診時の検査が異常に幅広く行われている例が散見されます。いわゆる「ブルドーザ型」の保険請求です（平成25年11月保険診療メモ「傷病名と保険診療」）。まれな疾患まで含めた「疑い」病名のあまりの多さから、審査の際に患者さんの臨床像がみえません。担当医の先生の資質を疑いたくなる例もあります。受診回数を減すには効果があるかもしれませんが、医学的な見地からは無駄に思えます。療養担当規則第20条ホには「各種検査は診療上必要が認められる場合に行う」とされていますし、福岡県医師会発刊の保険診療の手引き（平成30年版21頁）でも「各種検査は、診療上必要な検査項目を選択し、段階を踏んで、必要最小限の回数で実施する」とあります。

対象となりやすい病態として、不明熱、不定愁訴（とくに頭痛）、出血素因、肥満・やせなどが挙げられます。いずれも重症度が高ければ幅広い検査を必要とすることは理解できますが、医療機関によってはマニュアル化されているのではないかとと思われるほど、同一の検査内容で多数の請求が行われています。患者さんの重症度や臨床像によって検査項目を検討してください。診断に必須なものから始め、「ついでに」というような検査は初回の検査結果をみてから考慮してください。

実例を挙げるときりがありませんが、主病名が「肥満」の患者さんで併記の病名に「糖尿病疑い」とあり、HbA1cとともにIRIが行われています。糖尿病「疑い」でのIRIは査定の対象となりますので、「インスリノーマ疑い」という病態と矛盾する病名が追加されています。もちろん画像診断はありません。このような不適切な傷病名は甲状腺疾患でも多々見られます。

「甲状腺機能異常」が主病名で、鑑別に亢進症と低下症の傷病名が混在して記載され、自己抗体を含めて多種類の請求が行われる例などです。

単に「凝固障害」として線溶系検査まで行われている例（それもDダイマーとFDPの併施を含む）も少なくありません。DICの診断基準には基礎疾患のことが掲げられています。唐突に「DIC疑い」の病名を追加して多数の検査を行うのではなく、基礎疾患の有無やPTやPTTの結果を参考に線溶系凝固検査の必要性をご再考ください。もちろん大量出血の症例では一度に行う必要があるでしょう。その場合には大量出血があったことが分かる傷病名やコメントが必要です。なお、DICを起こしている症例以外ではDダイマーとFDPの併施は重複として査定の対象です。多くのDICの診断基準はFDPが採用されていますので、DICダイマーが査定されます。行う検査の意義（意味）を十分に理解してください。

疑い病名が10個以上掲げられているレセプトは決してまれではありません。審査をしながら、「主治医の先生は患者さんにどのように説明しているのかな？」と疑問に思っています。

（福岡県小児科審査員連絡会）

## 役員会報告 (10月4日：木曜日)

## 会員異動報告

## ★勤務医退会 (10/1 付)

浅井完 (産業医科大学→九州大学)

## ★勤務医入会 (10/1 付)

加藤稚子 (神戸大学→産業医科大学)

水城和義 (聖路加国際病院→産業医科大学)

多久圭佑 (九州大学→北九州総合病院)

## ★勤務医異動 (10/1 付)

川瀬真弓 (産業医科大学→北九州総合病院)

渡邊俊介 (北九州総合病院→産業医科大学)

柴原淳平 (北九州総合病院→小倉医療センター)

末松真弥 (北九州市立医療センター→小倉医療センター)

春日井悠 (北九州市立医療センター→小倉医療センター)

朴 崇娟 (小倉医療センター→北九州市立医療センター)

市地さくら (小倉医療センター→北九州市立医療センター)

## 委員会報告

## 1. 学術委員会報告：神菌淳司

10月17日 富山大学の種市先生に脳死関連

11月21日 大阪大学の皮膚科の先生に講演依頼

12月19日 インフルエンザ (ゾフルーザ) 関連を予定。

## 協議事項・報告事項

## 報告事項

①10月5日(土曜) 福岡県小児科医会役員勉強会：於；福岡市各地区から役員が出席しての勉強会。

演題は北九州地区・福岡地区から1題ずつ出し、

当会からは『発達障害への取り組みについて』

## 協議事項

① 第56回北九州地区小児科医会総会(令和2年1月19日)

特別講演：【発達障害のある子どもと楽しさを共有

できる診療をめざして】

久留米大学小児科主任教授 山下裕史朗先生

専門医更新単位の申請を行っています

②将来構想委員会

10月21日開催予定です。メールでの公募調査では立候補者

はありませんでした。